

2022 年度さくらねこ無料不妊手術事業

行政枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2022 年度は 3,546 名の個人(一般枠)、47 団体、298 の行政と協働し、62,128 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 25,538 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 3,096 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 32,243 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,251 頭(犬は申請なし)

無料不妊手術実施頭数 総合計 : 62,128 頭

1. アンケート概要

2022 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(行政枠)に事後調査アンケートを実施しました。

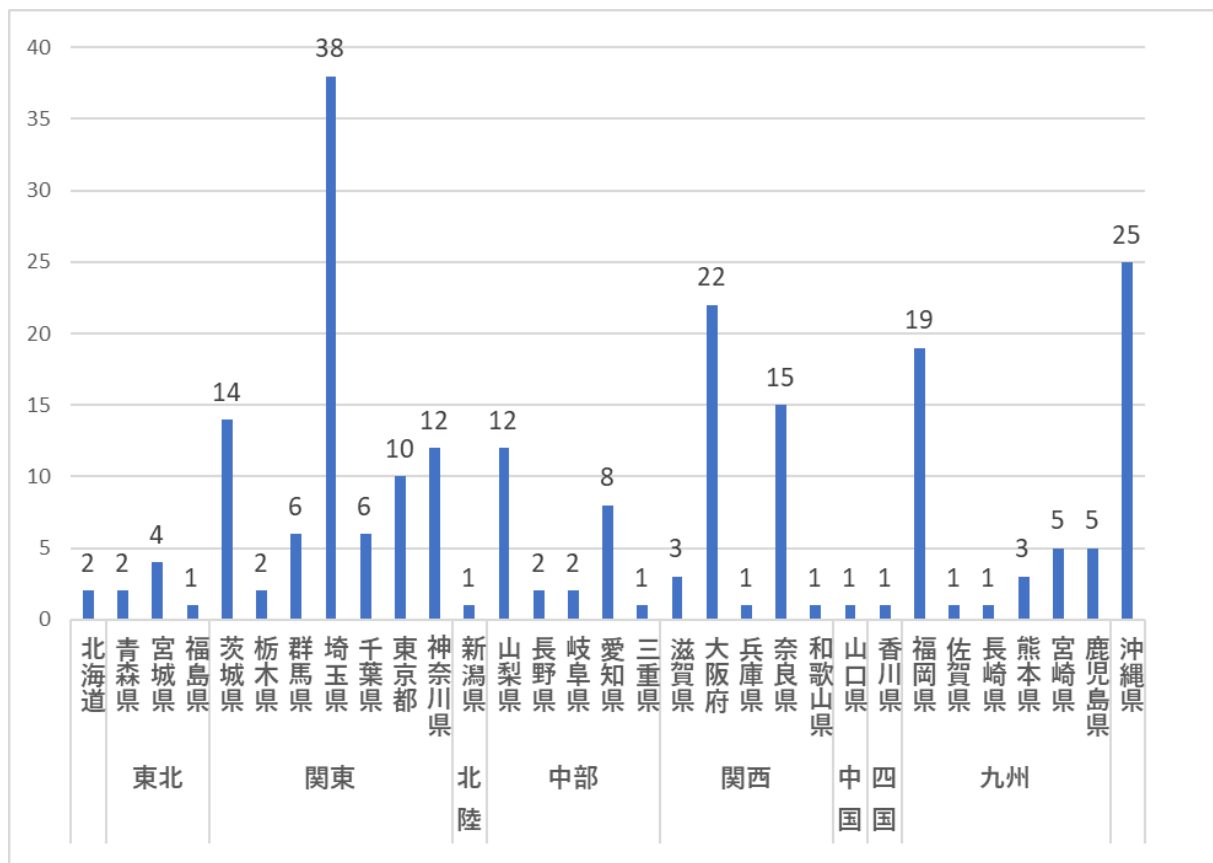
※行政枠の対象は、行政(地方公共団体)およびそれに準ずる団体です。公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象となります。

- 2022 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請行政数 298 件
- アンケート有効回答数 226 件

2. 団体の種類について

団体の種類	票数	%
地方公共団体(都道府県)	9	4.0%
地方公共団体(市町村)	212	93.8%
公園等の指定管理者	4	1.8%
その他	1	0.4%

3. 都道府県別登録行政数



※アンケート回答 226 行政の都道府県別

地方別で見ると、関東(39%)、関西(19%)、九州(15%)となっています。九州では、登録行政が増えているものの協力病院の数が少なく、希望どおりのチケット配布が困難な状況が続いており、協力病院の増加に向けた施策が求められます。また、2022年度は香川県で新たに2行政の登録がありました。四国も猫が多い地域ですが、登録行政数と協力病院数が伸び悩んでいます。

4. 飼い主のいない猫対策の予算について

2022年度 飼い主のいない猫対策の予算の有無	票数	%
予算があった	93	41%
予算がなかった	133	59%

2023年度 飼い主のいない猫対策の予算の有無	票数	%
予算がある	96	42%
予算がない	130	58%

飼い主のいない猫対策の予算の有無と使用用途について、2022 年度、2023 年度の状況を尋ねました。両年度とも、予算を確保しているのは半数以下となっています。

予算の使い道では、各年度とも不妊手術費用の助成が最多です。そのほか、捕獲器の購入やボランティア団体への餌代、ペットシート代、医療費の補助などとなっています。また、啓発活動や譲渡活動に関する費用、猫の生息数調査やボランティア育成のための講習費用などに使用している行政もありました。

行政からは、予算の確保が難しいという声をよく聞きます。予算を確保するには、TNR 活動の必要性和実効性を客観的に証明しなければいけません。そのためには、無料不妊手術チケットを活用して実績を積み上げていくことが必要です。

5. チケットの使用について

申請者からのチケットの分配方法（複数回答）	票数	%
協働するボランティア団体に再配分した	130	58%
協働する個人ボランティアに再配分した	95	42%
ボランティア活動をしていない一般市民に再配分した	34	15%
行政が自ら猫を捕獲して使用した	28	12%

チケットの使用方法（複数回答）	票数	%
実際の TNR 作業はボランティアがすべて行った	168	74%
実際の TNR 作業は申請者自身がすべて行った	39	17%
申請者とボランティアが協働して TNR 作業を行った	45	20%

登録行政の多くが、TNR 活動をボランティア(団体・個人)に頼っています。経験豊富なボランティアの存在は行政にとって欠かせないものであり、ボランティアにとっても、住民への対応に長けた行政の存在は欠かせません。いわば車の両輪のようなもので、良好な関係を築くことで地域の猫問題は解決に向かいます。

また、割合は少ないものの、ボランティア活動をしていない一般市民へのチケット再配分も行われています。TNR は猫好きのためだけの活動ではありません。無料不妊手術チケットは、猫の問題を行政に相談してきた市民の方へご提案できる一つの解決策でもあります。

6. 猫の引き取り数

TNR 後の行政による猫の引き取り数について（回答数 145）	票数	%
前年と比べて減った	47	21%
前年と比べて変わらない	88	39%
前年と比べて増えた	10	4%

7. チケット申請回数

2022 年度にチケットを申請した回数	票数	%
申請なし	19	8%
1 回	11	5%
2 回	10	4%
3 回	6	3%
4 回	11	5%
5 回	12	5%
6 回	12	5%
7 回	9	4%
8 回	5	2%
9 回	18	8%
10 回	13	6%
11 回	30	13%
12 回	70	31%

8. 配布チケット数

2022 年度に配布を受けたチケットの数	票数	%
0	19	8%
1～10	11	5%
11～30	25	11%
31～60	21	9%
61～100	40	18%
101～200	61	27%
201 以上	49	22%

49%の行政が 101 枚以上のチケットの配布を受けました。

9. 配布されたチケットの使用率

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	33	15%
80～99%	62	27%
60～79%	36	16%
40～59%	48	21%
20～39%	23	10%
1～19%	5	2%
使用しなかった	19	8%

58%の行政が60%以上の使用率でした。多くの行政が高い使用率を達成していますが、使用率20%未満は全体の24行政で全体の約10%を占めています。

猫が捕獲できなかった、病院の予約が取れなかった等、さまざまな理由が考えられますが、そういった事態も計画に含めておくことが、チケットを無駄にしないコツです。

10. 対象地域

さくらねこ TNR をした猫と地域について	票数	%
行政に地域猫活動地域として認められ管理されている地域	24	11%
行政が認めた地域猫活動地域ではないが、不妊・去勢手術の実施が必要な地域	193	85%
管理している施設の敷地(公園、港湾、学校など)	9	4%

行政に公式に認められた地域猫活動地域は、全体の11%でした。

行政枠チケットは申請主体が行政でありながら、行政が地域猫活動を認めていない地域での使用が8割を超えています。

TNRを行った場所(複数回答)	票数	%
住宅地	202	89%
公園	66	29%
港湾	17	8%
学校	0	0%
公共施設	9	4%
その他	56	25%

11. さくらねこ TNR を実施した猫の変化

TNR を実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った	170	75%
猫の性格が穏やかになった	55	29%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	68	24%
尿臭が激減した・ほぼ無くなった	37	30%
猫の健康状態が良くなった	32	16%
その他	27	14%

その他は、「猫の交通事故が減った」「保健所への引き取り依頼が減ったと感じる」「苦情が減少した」等のほか、TNR 後の状況を把握していないという回答がありました。TNR は、事後の検証を含めて計画的に行うことでより高い効果を発揮します。手間や時間はかかりますが、効果検証は必ず行うべきです。

11. 新たな捨て猫の数

TNR 後の新たな捨て猫の数について	票数	%
捨て猫が減った	36	22%
捨て猫の数は変わらない	13	8%
捨て猫が増えた	2	1%
わからない	133	69%

12. 住民や猫ボランティアとの関係の変化

住民や猫ボランティアと申請者(行政側)の関係は	票数	%
良くなった	144	64%
変わらない	80	35%
悪くなった	2	1%

2 行政が「悪くなった」と回答しました。「市民からの相談が増え対応が難しくなった」「チケット使用時の費用負担をめぐるボランティア団体との関係が悪化した」というものでした。

こういった課題を1つずつ解決していくことが関係改善につながります。今回のアンケートでも64%の行政が、「TNR への理解が進み見守ってくれる住民が増えた」「住民の相談に答えられるケースが増えた」「感謝されることが増えた」等の手ごたえを報告してくれました。

13. 地域住民との関わりの変化

TNR を実施した地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	94	41.6%
苦情が減った	119	52.7%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	66	29.2%
協力してくれるひとが増えた(できた)	88	38.9%
地域の人に感謝された	74	32.7%
猫を可愛がってくれる人が増えた	23	10.2%
その他	1	0.4%
変わらない	36	15.9%

14. 今後の課題

今後の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	137	61%
資金不足	90	40%
捕獲のやり方	72	32%
地域住民との調整	143	63%
活動団体との調整	67	30%
その他	11	5%
特になし	11	5%

15. 飼い猫の捕獲について

2022 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	10	4%
いいえ	216	96%

2022 年度の本事業で飼い猫を間違っ手術して問題になった	票数	%
はい	3	1%
いいえ	223	99%

飼い猫を捕獲した 10 例のうち、手術まで至ったケースが 3 例確認されました。

16. 所感

今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して	票数	%
大変良かった	171	76%
良かった	44	19%
普通	11	5%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%

95%もの行政が「大変良かった」「良かった」と回答しており、「悪かった」「大変悪かった」と回答した行政はありませんでした。多くの行政が無料不妊手術チケットの実用性の高さとそのメリットを実感しているといえます。「普通」と回答したのは 11 行政ですが、その理由は 2022 年度にチケットを申請しておらず実績がない、実績が少なく評価ができないというものでした。

17. 来年度に向けて

来年度も行政枠無料不妊手術事業を	票数	%
活用したい	213	94%
活用したくない	0	0%
検討中	13	6%

「活用したくない」と回答した行政はありませんでした。

「検討中」と回答した 13 行政は、「相談件数が少ない」「TNR の実施には地域の理解と容認を得る必要があるため」「自治体独自の補助金・助成金制度を使用予定」といった理由を挙げています。

18. ピックアップコメント

【地域住民からの声や、地域住民との関わりにおいて気づいた変化】

- 本市では TNR 費用の補助金を交付していますが、年度途中で予算上限に達し、継続的なサポートが困難となっていました。しかし、動物愛護推進員とともにチケットを利用させていただいたおかげで、継続的なサポートを行うことができ、住民やボランティアと良好な関係を維持できたと考えています。
- 役所に連絡しても殺処分されると誤解している市民もいるなかで、TNR を進めていくことの合理性は市民に理解を得やすく、当市の取り組み、姿勢が、市民やボランティア団体から評価を得られるようになってきた。

- 市民からの苦情に対し、行政とボランティア団体が協働し迅速に対応することで感謝の言葉をかけられることが増えた。
- 本事業開始を検討する前は、野良猫に対して改善の手段がなくハードなクレームもあったが、事業開始により、クレームの頻度や勢いは落ち着いたと思われる。
- ボランティアの活動により猫の数が減少し、住民からの糞尿等に関する苦情がほとんどなくなりました。あったとしてもボランティアの活動を説明することで納得されることが多く、日頃より感謝しています。それに加え、以前より多くの未手術の猫がおりたびたび苦情が寄せられていた地域でも、地域住民の協力を得ることで TNR に着手することができ、地域の問題解決に繋がっています。

【どうぶつ基金にご寄付をいただいた皆様へ】

- 当町には多くの飼い主のいない地域猫がおり、半数ほどしか不妊去勢手術が進んでいない状況でしたが、皆様よりご支援していただいたチケットを利用し、多くの地域猫の手術をすることができました。町民の方々も非常に喜ばれ、不妊去勢手術を実施したことで、地域猫としてより可愛がることができるのお声をいただいております。
ご支援いただきました皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。
- 猫に対する苦情が増えているなかで、町からの補助金は予算確保が困難であり、対応に苦慮しているところです。皆様からの善意の寄付により、どうぶつ基金のチケットを利用できることは、当町や当町の住民にとって非常にありがたく、助けられております。ありがとうございます。
- どうぶつ基金へのご寄付として、心のこもったご厚志を賜り、誠にありがとうございます。近頃では、市民の方からの本活動へのお問い合わせも増え、「何か協力できないか?」「私たちも参加したい」などのお声をいただく機会が増えてきております。これも皆様のご協力の賜物であると感じております。本市では、昨年より本活動に参加させていただいておりますが、今後とも、地域猫とともに暮らしていける市を目指し、尽力していく所存です。引き続き応援、ご支援をいただけますと幸いです。
- 皆様のおかげでたくさんの野良猫を「さくらねこ」にすることができました。殺処分されずに、地域猫としてのんびり過ごしている「さくらねこ」たちを見るたびに、寄付していただいた皆様の思いを感じます。本当にありがとうございます。
- 皆様のご寄付により、どうぶつ基金のチケットを活用させていただき、2022 年度は 302 頭もの猫に不妊手術を施すことができました。市内地域猫登録団体やボランティア活動をしている人達が繋がり協力し、猫の情報を共有し合って広域に渡って活動が行われるようになってきました。ありがとうございます。

19. 総括

- 2022 年度は 298 の行政に無料不妊手術チケットを発行しました。昨年度から 85 行政の増加です。登録行政数は 71 増えて、2022 年 3 月末時点で 428 行政となっています。登録増加の背景には、近隣の行政が「さくらねこ無料不妊手術事業」に参加して効果をあげていることや、行政に事業への参加を要望するボランティアが増えていることが影響していると思われます。現在、秋田県、山形県、石川県、福井県、岡山県、広島県、徳島県、愛媛県、大分県の 9 県が登録行政 0 の空白県となっていますが、この 9 県で無料不妊手術チケットの需要がないのかというところではありません。個人や民間団体が一般枠や団体枠でボランティア登録し活動しています。登録が進まない理由としては、人員や資金の問題、体制の問題、関連団体との関係性などが考えられますが、協力病院の有無も理由の一つであると考えています。空白県のうち、山形県、石川県、福井県、岡山県、徳島県、愛媛県、大分県の 7 県には協力病院がありません。空白地域をなくすためにも、協力病院の増加に向けた施策が必要です。
- 昨年度から「飼い主のいない猫対策の予算の有無」について尋ねていますが、2022 年度に予算があったと回答した行政は 41%、2023 年度に予算を確保していると回答したのは 42%で横ばい状態です。予算の使いみちとしては、不妊手術費用の助成のほか、ケガの治療やワクチン等の獣医療費、捕獲器やペットシートなどの備品購入、協働しているボランティアの活動費の助成などとなっています。TNR に予算を充てる価値があると認めてもらうには、実績に基づいた信頼性の高い資料を準備してその必要性や効果を理解してもらうしかありません。2022 年度、一部行政に試験的に導入した「地区別手術数管理表」は、TNR の計画～実施、検証まで行えるツールとなっています。2023 年度からすべての登録行政において作成が義務化されていますが、各行政において、さらに必要な項目を追加する、実績をグラフ化する等のアレンジも可能です。TNR の結果を数値化することで見えてくるのが必ずあります。予算確保の資料としてはもちろん、TNR の計画立案にもご活用いただきたいと思えます。
- アンケートに回答した 226 行政のうち、50%にあたる 113 行政が 1 年間で 10 回以上のチケット申請を行っていました。多くの行政が、配分されたチケットを無駄にすることなく高い使用率を達成していますが、前項記載の「地区別手術数管理表」を、試験導入した一部行政に提出してもらったところ、チケットの使われ方に問題があることも分かってきました。それは、「配分されたチケットを全申請者に対して均等に再配分している行政が多いこと」です。すべての申請者に対して平等にチケットを再配分して解決に向かうのであればよいのですが、「自宅の庭や会社の敷地内にやってくる野良猫を手術してあげたい」といったようなごく狭い範囲での TNR を除き、ほとんどの場合いつまでたっても解決しません。TNR の三大原則は「すぐやる、全部やる、続ける」です。現状分析をせず優先順位をつけない TNR は、このうちの「全部やる」が欠けてしまい、猫の繁殖スピードに追い付きません。良くて現状維持、悪くて TNR をやっているのに猫が増えるという結果になります。TNR で確実に効果を出すためにも、数に限りのあるチケットを有効活用するためにも、優先順位をしっかりとつけて 1 コロニー(1 地区)ずつ確実に完了させることが大切です。

- 行政枠無料不妊手術事業を活用して「大変悪かった」または「悪かった」と回答した団体はありませんでした。11 行政が「普通」と回答していますが、2022 年度にチケットを申請しておらず実績がない、実績が少なく評価ができないという理由です。

一方、「大変良かった」「良かった」と回答した団体からは、「明らかに頭数の抑制ができて」「猫の鳴き声や糞尿に関する苦情が減った」「交通事故等で死亡した猫の回収依頼が明らかに減った」という声のほか、「TNR やさくらねこが知られるようになり、協力しないまでも見守ってくれる人が増えた」「住民からの苦情や相談に対して具体的な提案ができるようになった」「マナーの悪い餌やりをしていた人も協力してくれるようになり、地域で活動するボランティアとのトラブルが減った」等の声が寄せられています。

「少しずつではあるが、人と猫が共生できる社会へ近づいている」という嬉しい回答もありました。

- 「来年度も行政枠無料不妊手術事業を活用したいか」の質問には、実に 94%もの団体が「活用したい」と回答しています。

いちばんの理由は、行政が対応できない地域(助成することができない地域)でも TNR を実施できることです。また、住民やボランティアからの評価が高いことにくわえて、行政自身も住民からの苦情や死体の引き取り依頼が減少しているという実感が得られていることも、事業への参加を継続する大きな理由となっています。事業に参加したことで地元ボランティアとの繋がりができ、これまで行政が把握できていなかった地域の現状を知り、「まだまだ不妊手術を必要とする地域があるので今後も利用したい」と回答した行政もありました。

殺処分を減らしたい、不幸な猫を減らしたい、人と動物が共生できる社会を作りたい、という気持ちは皆同じです。この事業を通して、どうぶつ基金、行政、ボランティア、地域住民の繋がりが広がっていくことで必ず達成できるはずです。

- さくらねこ無料不妊手術事業の行政枠は開始から 6 年が経ちました。この事業が、殺処分数の減少や飼い主のいない猫の繁殖抑制に大きな成果を上げていることは、利用している行政の所感でもデータ上でも証明されています。そして、住民からの苦情や相談に具体的なアプローチができること、地域で活動するボランティア団体の支援になること、住民への動物愛護の啓発になる等のメリットもあります。参加を検討している行政からの問い合わせは多く、2023 年度に入っても行政枠の登録申請は増え続けています。

しかし、6 年が経過した今、さまざまな課題も見えてきました。一つは、多くの行政で飼い主のいない猫の問題の対策が「さくらねこ無料不妊手術事業」のみとなってしまうことです。行政が独自の取り組みを開始できるよう、予算確保や施策立案に関するアドバイスなども、今後どうぶつ基金として取り組んでいくべきではないかと考えています。

また、行政枠チケットを使用するボランティアとの関係性も課題の一つです。登録行政の多くは、担当者に TNR 活動の経験がなく、実際の活動となるとボランティアに頼らざるをえません。しかしながら、行政枠の主体はあくまで行政自身であることが重要です。どの地域を優先して集中的に TNR を行っていくかは、公平・公正な視点で判断できる行政が行うべきです。